

長野県議会 6 月定例会一般質問

6 月定例会の一般質問を報告いたします。「学校活動と部活動の地域展開」、「子どものウェルビーイングを向上させる包括的性教育」の 2 つのテーマを取り上げました。



一般質問はこちらから視聴できます



1 学校活動と部活動の地域展開

【学校活動の役割と居場所】

生徒会や部活動など主体的な学校活動は、協働性や責任感を育む子どもたちの大切な居場所である。部活動改革を単なる運営主体の変更とせず、成長機会や居場所を守る視点が必要だが、学校活動への認識を伺う。

(教育長) 学校活動は生徒が成果を実感し活躍できる場だ。仲間との対話や調整、失敗等を通じた学びを充実させる。教師が子どもを信頼して任せることが自己有用感や居場所の実感に繋がると認識している。

【多様な活動機会の創出】

過度な競争や長時間活動による心身の負担が指摘される中、適切な活動時間の確保や、多様な活動に触れる機会の創出が必要と考えるがいかがか。

(教育長) 指導要領の改訂で複数のスポーツや文化芸術活動等の幅広い経験への配慮が明記された。県では多様な種目を体験できるフェスタを開催した実績もあり、学校の枠を越えて様々な活動を体験できる機会の創出を市町村等と進めていく。



危機管理建設委員会質疑の様子

【安心して活動できる体制整備】

部活動の地域展開において教育的価値を守るため、ハラスメント防止、指導者の質の確保、事故時の責任・緊急時対応など、安心して活動できる体制の整備が重要であり、取組を伺う。

(教育長) 市町村と連携し、ハラスメント防止等の指導者研修会へ講師を派遣するなど充実を図るほか、資格取得経費の補助を行っている。指導者の質の担保や的確な事故対応に引き続き取り組む。

【大会の在り方と方向性】

中体連の全国大会縮小や地域展開が進む中、文化芸術を含め様々な目標を持つ子どもたちが成果を発表し、互いに讃えあう場としての大会の在り方や方向性をどう考えているか。

(教育長) 現在、地域クラブも参加できるよう大会の参加規程等の見直しが進められている。部活動の意義を継承・発展させた地域クラブが成果を発揮できるよう、関係機関と連携して取り組む。

【遠征時の移動の安全確保】

部活動遠征時の送迎や安全確保が課題である。実態を調査し、ガイドラインを定め、安全確保の対策が必要と考えるがいかがか。

(教育長) 移動の安全確保は重要な課題である。現在、部局横断のワーキングチームを設置し実態把握を行っている。分析や課題整理を進め、実効性のある指針の策定を検討していく。

2 子どものウェルビーイングを向上させる包括的性教育

【生きづらさの背景と人権教育】

複雑化する子どもの生きづらさの背景をどう認識しているか。また、自他を尊重する人権教育をさらに強化すべきではないか。

(教育長) 国籍や価値観、発達特性の違いなどによる人権が十分に尊重されていない状況がある。教職員の研修充実や地域連携を通じ、多様性理解と自他を大切にする人権教育に取り組む。

【保育所等における性教育】

県条例に基づく保育所等の性教育の現状と課題を伺う。

(こども若者局長) プライベートゾーンを大切にす、困ったら相談することなど、身を守る力を育む取組を行っている。保育士が、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援力を身に付けることが課題だ。研修や巡回指導で保育士の支援力向上を図り、保護者への啓発を進める。

【学校における性に関する指導】

公立の小中学校や県立高校での性に関する指導の現状を伺う。

(教育長) 発達段階に応じた保健体育等での指導を行っているが、科学的知識を教えるだけに留まることが散見され課題だ。研修等を通じて児童生徒一人ひとりの生き方や人権尊重に繋がる視点を大切にした指導ができるよう教員の資質向上に努める。生き方に関する指導のため、教員により指導法が異なることはありうる。



【性被害相談と窓口周知の状況】

「りんどうハートながの」の相談件数や傾向、窓口の啓発状況はどうか。

(県民文化部長) 令和 7 年度は過去最多の 173 件(対応 1,277 回)の相談があり、学校関係が増加傾向だ。広報カード配布等で認知が進み、潜在化していた被害が相談に繋がっていると考ええる。県教委との情報共有や、二次被害を防ぐ養護教諭等向けの研修も開催している。

【生命(いのち)の安全教育】

「生命の安全教育」の取組状況と課題、また危険回避にとどめずウェルビーイング向上へ発展させる必要性への所見を伺う。

(教育長) 教員研修や各学校へ教材活用を周知しているが、教科横断的な指導計画はまだ不十分だ。本教育の目的は、自他の生命や人権を尊重する力を育むものであり、子どものウェルビーイング向上に繋がると認識している。

【長野県版ガイドラインの策定】

「生命の安全教育」を一步進め、子どものウェルビーイングを向上させる「プラス指向教育」として、包括的性教育の考え方を取り入れた長野県版ガイドラインを策定すべきではないか。

(教育長) 国(文科省)の指導要領改訂に向けた議論の動向を注視し、情報収集に努める。ガイドライン策定も一案だが、現場や保護者の意見を参考に在り方を研究する。

県議会 9 月定例会

9/24(木)開会、29(火)～30(水) 代表質問、10/1(木)～6(火)一般質問、7(水)～9(金)各委員会、14(水)閉会

※YouTube

「長野県議会チャンネル」で視聴可能です。ぜひご覧ください。

